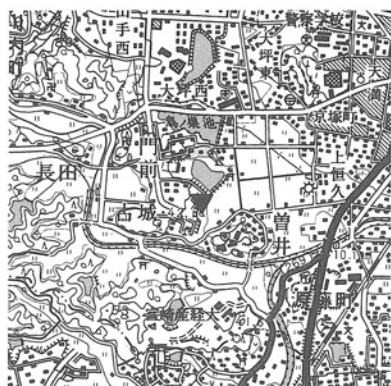


宮崎・曾井^{そい}第二遺跡

- 1 所在地 宮崎市大字恒久字曾井
- 2 調査期間 第一次調査 二〇〇五年（平17）八月～二〇〇六年三月
- 3 発掘機関 宮崎県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 甲斐貴充
- 5 遺跡の種類 遺物散布地・寺院跡
- 6 遺跡の年代 古代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（宮崎）

曾井第二遺跡は、現在の宮崎市街地南西部、大淀川と清武川支流の古城川に挟まれた標高九～一二mの丘陵東斜面裾部に位置する。東方には宮崎市街地のある平野部が開ける。本遺跡の南東に隣接する丘陵地には、南北朝時代から戦国時代にかけて曾井氏・伊東氏・島津氏の居城となった曾井城跡がある。

曾井城の文献上の初見は延文六年（一三六二）で、その後元和元年（一六二五）の一国一城令で廃城になるまで存続したようである。

発掘調査は、国道バイパス建設事業に伴い、二次にわたって行なわれた。検出した主な遺構は、古代の周溝状遺構一基、中世末から近世にかけての掘立柱建物八棟・井戸六基・池状遺構一基・溝状遺構・石列・石塔群である。石塔群は、紀年や形態からみて一六世紀から一九世紀頃のものが中心と考えられる。中には、永正一八年（一五二二）と天文六年（一五三七）の紀年銘がある六地藏幢三基も含まれる。遺物は、縄文時代から古代のものをわずかに含むが、一四世紀から一九世紀の陶磁器類を中心とする。

一四世紀から一七世紀前半にかけての遺構や遺物は、曾井城と深い関わりをもつものと推測され、近世の遺構や遺物は、一八七二年の廃仏毀釈によつて廃寺となった瑞雲寺もしくはその関連施設に関わるものと推定される。

木簡は、第一次調査において一号井戸から一点、五号井戸から七点、計八点出土した。一号井戸は、井戸枠の上部が平面六角形の石積み、下部が結桶で、掘形は径約二・一三m深さ約二・七五mを測る。結桶の外側に墨書が認められた。井戸の築造時期は、出土遺物からみて江戸時代末から明治時代初頭と考えられる。五号井戸は、一辺約九〇cm深さ約二七〇cmの組立式方形縦板組の井戸枠をもつ。井戸枠の外側に竹や粘土とともに貼り付けられていた板状木製品に、

一
一
号井戸

- [illegible]

二五号井戸

- | | | | |
|-----|---------------------------|------------------------------|------------------------|
| (1) |
(イ)
(キリク)
「 | 「
(634) × 64 × 10
061 | |
| (2) |
念七仏
院
過去七仏
「 | 十四
(636) × 42 × 10
061 | (705) × 45 × 10
019 |
| (3) |
宋
「 | 一
(424) × 42 × 12
061 | (362) × 42 × 8
061 |
| (4) |
五 | (430) × 44 × 4
061 | |
| (5) |
廿 | | |
| (6) | | | |

91

(562) $\times 44 \times 10$ 061

(1)は、井戸枠を構成する一六枚の板のうち六枚に墨書がある。概ね一枚に一行ずつ書かれているが、文字が二枚の板にまたがる箇所もあり、板を組んだ後に墨書したと考えられる。「八大龍王」は法華經に出てくる八竜神のことで、水の神や雨乞いの神ともされる。井戸枠に記すことで、井戸が枯れることなく豊かな水が得られることを祈念したのであろう。「十五世寂水」は安政四年（一八五七）の紀年銘をもつ無縫塔にもみえ、「二己」は明治二年（己巳、一八六九）の可能性が高い。「当寺」は瑞雲寺を指すか。材はスギ。

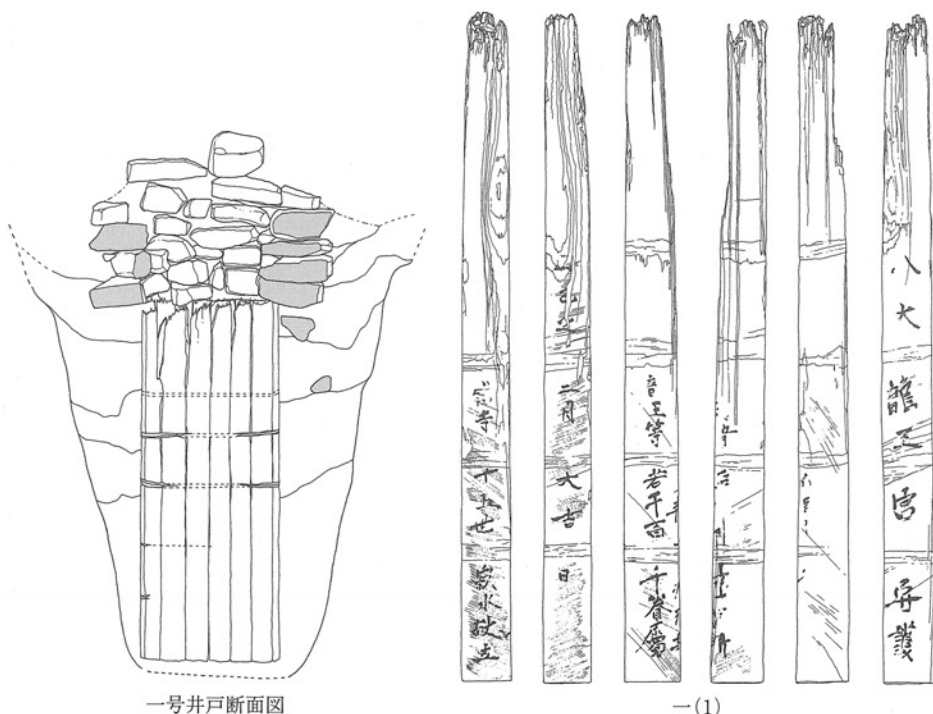
(2) (8)は、いずれも上部を欠損している。下端に数字が記されている理由は未詳。材はモミ属。(3)の二文字目は、「音」または「普」の可能性がある。

9
関係文献

宮崎県埋蔵文化財センター『曾井第二遺跡（第一次・第二次調査）』
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書一七五、二〇〇八年

(甲斐貴充〈宮崎県立西都原考古博物館〉)





—(1)

木簡研究 第二四号

卷頭言―情報化と松と檜―

二〇〇一年出土の木簡

東野治之

概要 平城京東市跡推定地 藥師寺旧境内 旧大乘院庭園 東大寺
藤原宮跡 藤原京跡左京二条二坊 藤原京跡左京六条二坊・七条二坊
石神遺跡 飛鳥池遺跡 長岡京跡 平安京跡右京六条三坊七・八・九・
十町 佐山遺跡(B₂地区) 大坂城跡 東心齋橋一丁目所在遺跡
広島藩大坂藏屋敷跡 鬼虎川遺跡 上津島遺跡 上町東遺跡 六条遺
跡 明石城武家屋敷跡 溝之口遺跡 赤穂城跡二の丸 志賀公園遺跡
下懸遺跡 仁田館遺跡 史跡建長寺境内 宮町遺跡 柳遺跡 八角堂
遺跡 柿田遺跡 八幡遺跡群社宮司遺跡 荒田目条里制遺構・砂畑遺
跡 泉慶寺跡(陸奥国行方郡衙) 中野高柳遺跡 市川橋遺跡 仙人
西遺跡 十二牲B遺跡 観音寺廢寺跡 本莊城跡 北遺跡 盤若台遺
跡 高間(六)遺跡 福井城跡 畝田・寺中遺跡 北中条遺跡 指江
B遺跡 四柳白山下遺跡 寺地遺跡 岩倉遺跡 六日町余川地内試掘
調査地点 北小脇遺跡 浦廻遺跡 船戶桜田遺跡 船戶川崎遺跡 出
雲國府跡 川入・中撫川遺跡 安芸國分寺跡 南前川町一丁目遺跡
南齋院士居北遺跡 高知城伝下屋敷遺跡 中原遺跡 京田遺跡
一九七七年以前出土の木簡(二四) 平城宮跡
積文の訂正と追加(五)